

■ 冬季は感染性胃腸炎が流行します。注意しましょう。

- 感染性胃腸炎を予防するには、
石鹸をしっかりと泡立てて流水で手洗いをする、
食品をしっかりと加熱するなど、日頃の習慣と注意が大切です。
 - 嘔吐や下痢がある場合は、すぐに受診をしましょう。
(急な吐気などにそなえ、ビニール袋などを持って受診するのが良いです。)
 - 感染者の便や吐物は、乾燥しても感染能力が残っています。また、症状がとれて治ったと思われる人でも 1 週間から長い人では 1 ヶ月後でもウイルスが便中などに排出されています
※ 同居家族などで、感染しあう場合があります。感染予防に十分注意しましょう。
 - ノロやロタウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムが有効です。家庭では手近にある「**塩素系漂白剤**」で代用できます。酸素系漂白剤では効果がありません。
ノロやロタウイルスに、アルコール消毒は効果的ではありません。
- ※ **塩素系消毒剤の他、85℃以上1分以上の加熱でも消毒効果があります。**
(食器や調理器具、まな板など)

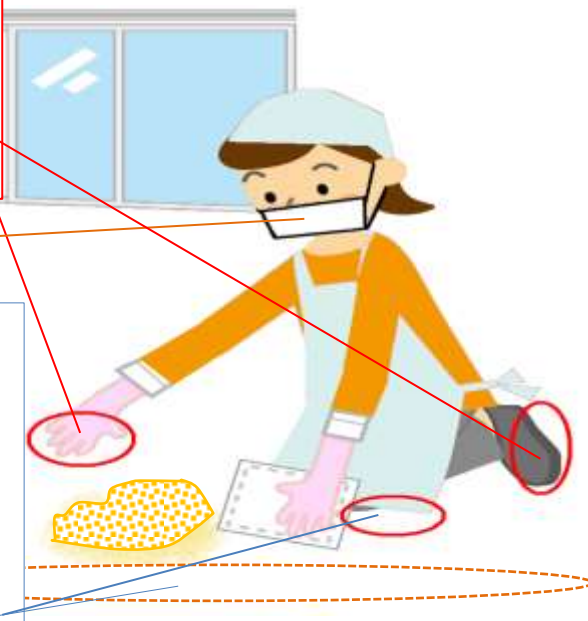


排泄物の処理や消毒時に気を付けることは？

排泄物（吐物、便等）の始末の時、手や足裏、雑巾などが汚染し、移動や再利用により他の人や場所への感染拡大の原因になる事もあります。
注意しましょう。

作業時には、マスク・手袋をつけましょう。

感染の原因になるウイルスは、固形物の吐物にだけ含まれているわけではありません。高さ1mから嘔吐した場合、吐物周囲の半径約2m~2.3mあたりまで目に見えないしぶきが飛び散ります。そのしぶきの中にもウイルスが含まれています。飛び散りに気付かず踏んだり処理の時に手やひざをつくと感染を広げることになります。



【消毒液調合には、計量にペットボトルやキャップを使用すると簡単です】

- ※ 原液や水の計量には、ペットボトルやキャップを使用すると簡単です。
(ペットボトルのふた⇒5mℓ・家庭用塩素系漂白剤のふた⇒25mℓ)
(家庭用塩素系漂白剤に含まれている次亜塩素酸ナトリウムは約5%です。)
- ※ 作った消毒液は時間と共に効果が減るので、保管はふた付きの容器で日の当たらないところに置きましょう。基本的には、使う時に作りましょう。
- ※ 消毒液の濃度は汚染がひどい場合は濃い方が効果がありますが、塩素は金属の腐敗や素材の脱色や損傷をおこすことがあります。下記を参考にして、0.1%又は0.02%を使い分けましょう。
- ※ 消毒時には、爪を短く切り、指輪や時計は外しましょう。リングや時計バンドの裏に汚染が残り、知らない間に感染拡大の原因になる場合があります。

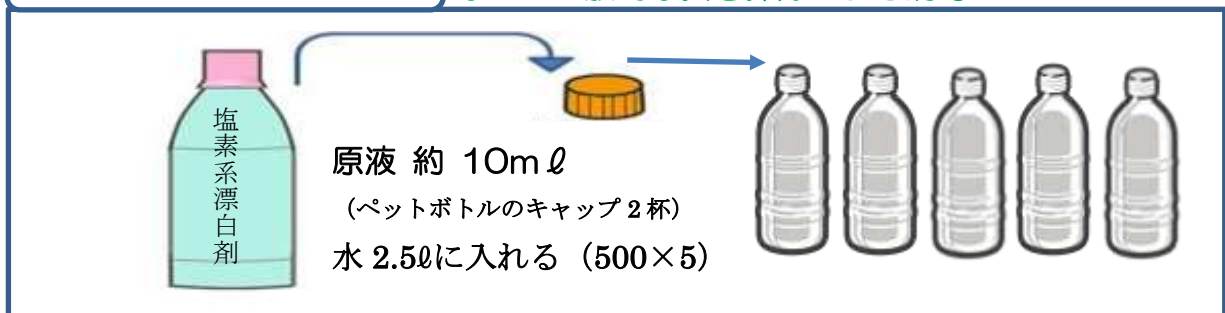
0.1%の消毒液の作り方

便や吐物などが直接ついていた下着や床などの消毒



0.02% の消毒液の作り方

衣類等の浸け置き消毒、ドアノブや便座、手すりなどの一般的な拭き掃除による消毒



※ペットボトル2ℓにキャップ2杯(10mℓ)を入れて作る0.025%の消毒液でも効果あり。

汚物の破棄（0.1％）

固形汚物を拭き取った布やペーパーはビニール袋に入れる。

0.1％の消毒液を必要量作り、汚物のついた布やペーパーを入れたビニール袋に注ぎこんで口を縛って捨てる。

拭き掃除（0.02％）

0.02％の消毒液を作り、拭き掃除に使用する。又はスプレーボトルに消毒液を常備し、吹きかけた後にペーパー等で拭き取る。※金属は変色する場合あり。

布団・カーペットなど（0.02％）

0.02％の消毒液を作り、拭く又はスプレーした後、スチームアイロンで加熱。高温洗濯機、乾燥機などの使用が効果的。

食器など（0.02％）

洗剤などで十分洗浄した後で塩素系漂白剤液（0.02％）につける。洗浄器具（スポンジなど）も忘れず消毒。

まな板、包丁、布巾、食器など

熱湯又は温風（85℃～90℃以上を持続させた温度）で1分以上加熱する。

衣類

汚物のついた衣類は直ぐに専用のビニール袋に入れ、汚染の拡大を防ぐ。

固形物をしっかり洗い落として専用のたらいで0.1％の消毒液に30分浸けた後液を捨て普通に洗濯。直接洗濯機を使用する場合は、水50ℓに塩素系漂白剤200mlを入れ、30分浸け置き後に液を捨て洗濯。

アイロン・スチームをあてることも消毒効果がある。